

FURUKAWA BATTERY REPORT 2017

# FOR SOCIETY 社会のために

# 海外事業

日本で培ってきた技術やノウハウを活用し、タイやインドネシア、 ベトナムの蓄電池事業の成長を加速させていきます。

# 

# 最先端 分野

非常用マグネシウム空気電池MgBOX、 新世代リチウムイオン電池など新事業の 創出に力を入れていきます。

再生可能エネルギーと組み合わせることで 雷力の安定供給に貢献していきます。

# 產業事業



# 経営理念

# 私たちは、挑戦者である

私たち古河電池は、常に挑戦者であり続けることをスローガンとし、公正と 誠実をモットーに、株主、従業員、お客様、地域社会をはじめとする様々な ステークホルダーの期待に応えるため、永年にわたり培って来た技術力を核にして、 絶え間ない革新を図り、持続的な成長と中長期的企業価値の向上を目指し、 真に豊かで持続可能な社会の実現に貢献します。

# 初動力

# 变换力

# 失敗力

誰もやっていないことに スピード感をもって 取り組みます

やわらかな心で 変化に対応し 新しい価値を創造します

いい失敗は 必ず次につながると信じ 勇気をもって挑戦します

# 私たちは、3つの力を結集し、挑戦者であり続けます

# 企業使命

「蓄える力、動かす力、見守る力で社会を支える」

# 企業姿勢

# 「誠意」

# 「真勇」 「貢献」

● お客様・社会とともにたゆまぬ発展を目指す

誠意をもってお客様と社会の期待に応え ゆるぎない信頼を築くことで 利益ある発展と進化を実現する企業

キラリきわだつ存在であり続ける

新しいものを生み出す真の勇気をもち 世界をリードする技術革新と あらゆる企業活動の変革に取り組む企業

● 貢献感のもてる企業風土の実現

自分の仕事での貢献が 社会で循環していくことを実感できる企業風土のなかに 多様な人財が集う、活力にあふれたあたたかみのある企業



# CONTENTS

#### ち河電池 レポート2017

そのために       古河電池 経営理念         トップメッセージ       At a Glance	·· 4 ·· 6
古河電池の価値創造 価値創造のあゆみ 価値創造プロセス 製品紹介 新製品紹介	10 12 14 16
FOR FUTURE 特集1 より社会のニーズに応えるために特集2 人財育成プログラム特集3 快学!古川シニアフェローが ガストンプランテメダル受賞	18 20 22

JUCIAL	
品質向上に向けた取り組み	24
地域社会に貢献する取り組み	28
ENVIRONMENT	
地球環境に貢献する取り組み	32
GOVERNANCE	
ガバナンスが機能する体制	36
職場環境改善の取り組み	39
人財育成の取り組み	40
財務ハイライト	44

#### ■ 編集方針

エネルギーを蓄え、自由に取り出すことが可能な蓄電池を 製造・販売する古河電池は、「すべての人の生活に欠かすこと ができないエネルギー供給装置の担い手として地球環境に配 慮した製品づくり」に取り組んでいます。本レポートはその取り 組みを目標・実績・活動の仕組み、および事例に基づいてわかり やすくお伝えすることを目的として編集しています。

編集に際しては、GRI「サステナビリティ・レポーティング・ガイドライン第4版」および環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」を参考に、可能な限り開示を行いました。またISO26000の7つの中核課題に対応する古河電池グループの取り組みについて、以下の表記を行いました。



#### ■ 報告対象組織

本レポートは古河電池株式会社および連結子会社を対象範囲としています。環境データについては古河電池のいわき、今市事業所の値です。

古河電池の概要 …… 46

#### ■ 報告対象期間

2016年度(2016年4月~ 2017年3月)

 $C \cap C \mid \Lambda \mid$ 

#### ■ 発行年月

2017年7月(次回:2018年7月発行予定、前回:2016年6月)

#### ■ お問い合わせ先

古河電池株式会社 環境推進部

TEL.: 045-336-5055 FAX.: 045-333-2534

本レポートは、編集時点での最新の情報に基づいて作成していますが、一部の情報については2016年度以前の内容も含みます。また将来予測などの情報に関しましてはさまざまな要因により結果が異なる可能性があります。あらかじめご了承下さい。

# 【ホームページのご案内】http://www.furukawadenchi.co.jp/

古河電池のCSRについて、より詳しい情報をホームページ上で公開しています。

# TOP MESSAGE FUTXUE-S



2017年 6月 代表取締役社長

2017年 6月 取締役会長

# 古河電池は、

# 「蓄える力、動かす力、見守る力で社会を支える」企業として新たなステージでの挑戦を続け、確かな成長を実現します

私たち古河電池は、創業以来60年を超える歴史のなかで、蓄電池や電源製品の製造・販売を通じ、"エネルギーを一時的に蓄え、必要な時に取り出す"という価値を一貫して提供してまいりました。

気候変動対策に関する世界的な合意や目標設定の動きが見られる昨今、環境対応車や再生可能エネルギーの有効利用に蓄電池は欠かせないものであります。今後、高エネルギー密度蓄電池のニーズの増加およびさらなる安全性・信頼性への要求が見込まれており、適切な対応が求められています。

この様な状況のなか、2017年3月期は、「2018年中期ビジョン(2016-2018年)」の初年度として、また、長期経営ビジョン「Dynamic Innovation 2020」の第2フェーズ"打って出る5年"のスタートとして、新たな成長ステージに歩みを進めた1年でありました。既存の成長領域の拡大や効率化に注力する一方で、異業種との関わりを通じた新規事業の創出や、海外での新しい資本提携・協業などに積極的に取り組んでまいりました。その結果、当期の連結売上高は553億円(前期比2.2%増)、営業利益は33億円(前期比13.9%増)と、増収増益を達成することができました。

また、2017年6月の株主総会を経て、前代表取締役社長の徳山勝敏が取締役会長に、前取締役専務執行役員の小野眞一が代表取締役社長に就任いたしました。徳山は、いわきとインドネシアにおいて製造現場を立ち上げた後、経営全般の指揮をとってまいりました。小野は、古河電池入社以来、一貫して技術開発に携わり、新製品開発など、事業の成長に貢献した実績を有しています。

社会がこれまでにない速さで変化していくなか、古河電池が持続的に発展し、事業を通じて社会や環境に 貢献し続けていくためには、事業運営のスピードをあげ、新しい技術・製品をタイムリーに提供していくことが 重要であると考えており、新しい経営体制は、今後、技術開発をさらに強化することで、事業の成長を加速さ せていこうという古河電池の方向性を示したものであります。

古河電池は、従来にも増して挑戦を続け、事業拡大と収益向上、その先にある社会価値の創造に努めていく所存です。同時に、今日まで継承してきた蓄電池・電源事業の真価を見つめなおし、新たに明文化した企業使命「蓄える力、動かす力、見守る力で社会を支える」を果たし続けられるよう、全社一丸となって全力をあげて取り組みを進めてまいります。

すべてのステークホルダーの皆様におかれましては、一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2017年7月 古河電池株式会社

取締役会長 徳山豚紋

代表取締役計長



# At a Glance

# 古河電池の経営戦略

2012年3月期からスタートした長期経営ビジョン「Dynamic Innovation 2020」は、2020年のありたい姿を見据えて、向こう10年の成長戦略をまとめたものです。国内既存市場の飛躍的拡大が難しくなっている状況下、海外、特にアジア地域への積極展開および新規事業創出・育成を成長の軸とする戦略を掲げています。古河電池は今、長期経営ビジョンの第2フェーズにあります。

第2フェーズ初年度の2017年3月期は、長期経営ビジョンの 第1フェーズ「足元固め」の期間から重点領域としていた、タイ子 会社の増強や環境対応車用電池生産などに尽力してまいりました。また、海外蓄電池メーカーとの資本提携・技術提携、国内大 学との次世代リチウムイオン電池開発会社設立など、新しい事業 スキームでの新規事業創出にも積極的に取り組んでいます。

2017年3月期から2019年3月期は、長期経営ビジョンの試金石となる「2018年中期ビジョン」の実現、また長期経営ビジョンの先の10年、20年につながる基礎を築くことが求められる重要な期間です。企業活動の根幹となる企業理念を見つめなおし、古河電池のよきDNAである「誠意・誠実」「貢献」「挑戦」といった価値観を全従業員で改めて共有することで、新たなステージにおいても、持続的な発展・成長に向け着実に歩みを進めてまいります。

長期経営ビジョン 実現のための キーワード

安全と品質の徹底的な追求

事業拡大と 新事業開拓 事業体質強化による 収益向上 グローバル展開の さらなる加速

# 事業概況

#### 事業概要

# 自動車事業



- 国内新車メーカー向けおよび取り替え 需要・補修対応用の自動車用鉛蓄電池 (環境対応車用含む)の製造・販売
- ●タイ子会社(SFC社)およびインドネシ ア子会社(FIBM社)での自動車用鉛蓄 電池の製造・販売 など



# 産業事業



産業用蓄電池(鉛蓄電池、アルカリ蓄電池、宇宙開発用リチウムイオン電池)、電源装置(直流電源装置、交流電源装置)の製造・販売 など

主な取引先:自治体、鉄道会社、電力会社、 通信事業者、電気機械メーカー、通信機器 メーカー



# 不動産事業

●連結子会社のHDホールディングス㈱による不動産賃貸・ビル管理

# その他

●連結子会社の第一技研工業㈱による樹脂成型品製造など

# 中期/長期経営ビジョン

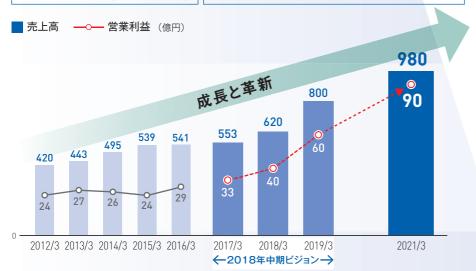
第1フェーズ

第2フェーズ

長期経営ビジョン Dynamic Innovation 2020

足元固めの5年(~2016/3)

打って出る5年(~2021/3)



#### 重点領域

- •いわき・今市工場の「マザー工場化」による製造・技術・人財 の海外展開推進
- ●海外拠点の収益性のさらなる 向上

#### 製品例

#### 自動車用バッテリー





|木製 インドネシブ



タイ製

#### 産業用蓄電池

- ●今市地区拡大整備を通じた 事業革新および原価低減推進
- ●海外パートナーとの連携強化 (中国、ベトナムなど)
- ●工事・サービス対応体制の充実



据置鉛蓄電池



鉄道車両用蓄電池



防災·非常灯用 蓄電池

※ 左ページのセグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高または振替高を含みます。

# 長期経営 ビジョン Dynamic Innovation 2020の実現

2020年度目標值:

売上高 980億円 営業利益 90億円 海外売上高比率 60%

# 価値創造の歩み

# お客様や時代のニーズに合わせた価値を提供しています。

古河電池株式会社は、古河電気工業株式会社の電池部門を前身として、昭和25年に独立、創業いたしました。 以来60年以上にわたり、電池・電源分野のエキスパートとして社会と時代の発展に寄与しています。

1955

航空機用蓄電池の製品化

2002

高耐食性合金C21の開発に成功し、 自動車用鉛蓄電池に適用

初充電不要の 即用式蓄電池の製品化

ISO9001·2000年版で 全社統合取得

1952

蓄電池メーカーとしては 初のデミング賞受賞 1968

アルミニウム蓄電池を開発

1950

古河電池として発足

1966

人工衛星用蓄電池を開発

売上高



※上記グラフは単体の数値です。 ※1950年度は、1950.9.1から1951.5.31の9ヶ月間(第1期)の売上金額を入れています。1951年度は、1951.6.1から1952.3.31の

風力発電併設蓄電システムの 運用開始 2014



百万円

**45,000** 

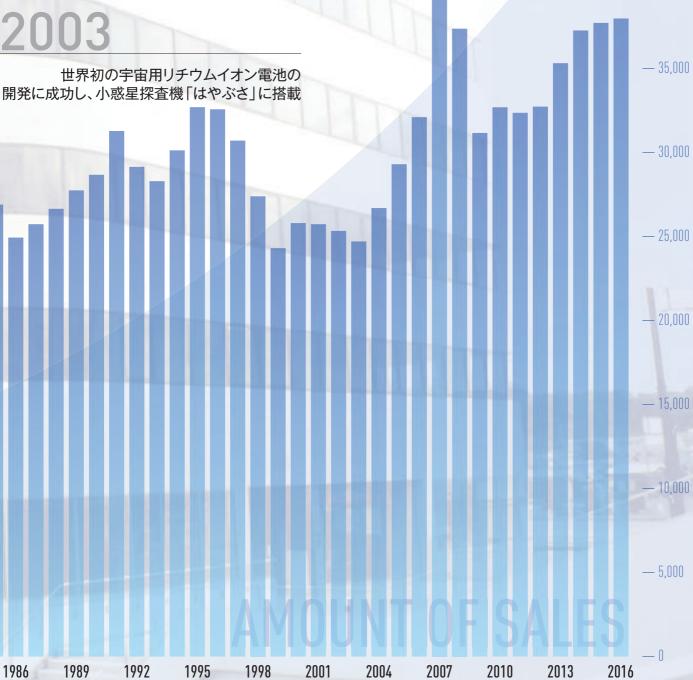
-40,000

非常用マグネシウム空気電池 MgBOX (マグボックス)を開発



鉛蓄電池の性能を大幅に改善した UltraBattery (ウルトラバッテリー)を開発

世界初の宇宙用リチウムイオン電池の



10ヶ月間(第2~3期の合算)の売上金額を入れています。1951から1965年度は、半年毎に1期換算のため、2期分を合算した売上金額を入れています。

# 価値創造プロセス

# 豊かな環境と社会の実現に向けて

古河電池は、経営とCSRの融合を通じて、時代や社会のニーズにマッチした安全性・環境性・利便性に優れた 電池・電源分野の製品を提供し、新たな付加価値の創造に取り組んでいます。

解決すべき社会的課題

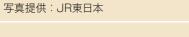
社会的課題解決のための

# 社会インフラへの電源の安定供給









# 災害時における電源確保









# 地球温暖化の<u>防止</u>







# 技術開発の進展









イラスト:池下章裕



古河電池の取り組み

社会と共有する価値を創造

# 社会インフラに必要な エネルギーを蓄える技術

過酷な状況でも安定的に エネルギーを供給できる 各種バッテリー

- ●自動車用バッテリー
- ●二輪車用バッテリー
- ●直流電源装置 など



# 避難所などでも簡単に 電力を確保できる技術

水や海水を入れるだけで 発電する紙製容器でできた マグネシウム空気電池



# 再生可能エネルギーを 蓄える技術

風力発電や 太陽光パネル向けの バッテリー



# 宇宙開発を支える技術

人工衛星や惑星探査機 向けのバッテリー



# 社会にとっての価値

- ●安全で快適な生活
- 災害時における問題の軽減
- 地球環境の改善
- 科学技術のメリット享受 など



# 古河電池にとっての価値

- ●収益力の向上
- ●財務状況の強化
- 市場の獲得
- ●ブランド価値の向上
- ●ビル関連技術の向上
- 安定的な収益の確保
- 人財の専門性向上
- 従業員のモチベーションの向上
- ●地域との共生
- 事業継続の実現 など



# 製品紹介

# 縁の下の力持ちとして、古河電池の製品は活躍しています。

自動車をはじめ、鉄道、船舶などの交通システムを確実に動かすエネルギーとして使われています。 また、高度情報化社会のさまざまな分野を力強く支える予備バッテリーとしてのエネルギーや、 信頼性の高い宇宙開発用電源など、暮らしのあらゆるところで、古河電池のテクノロジーは活躍しています。





# 新製品紹介

社会や時代の発展に寄与して次代を拓く、古河電池の新製品をご紹介します。

### 自動車用バッテリー

アイドリングストップ車用バッテリー

# 世界初特許取得済み

# ECHNO[エクノ] IS UltraBattery

K-42/B19L、K-42R/B19Rの追加

従来の鉛バッテリーにキャバシタ機能を採用することで、両者の長所をあわせ 持つ世界初のアイドリングストップ車用バッテリーです。今回、軽自動車の需要に あわせ、K-42/B19L、K-42R/B19Rを追加ラインナップしました。

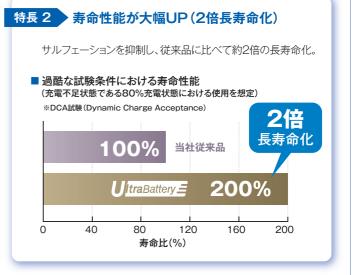




※図はイメージです。

# 特長 1 スピーディな充電回復 充電受け入れ性の向上により、充電の回復がスピーディに。 従来品に比べて約30%向上。 事業車による充電受け入れ性試験 約120秒 変 98 が120秒 第200 変 96 95 当社従来品 96 30%向上

経過時間(秒)



#### ■ 要項表

バッテリー形式(品番)		電圧	5時間率容量 外形寸法(約 mm)		液入質量	フタ	端子位置	アクセサリー			
Lタイプ	R タイプ	(V)	(Ah)	総高さ	箱高さ	幅	長さ	(約 kg)	形状	<b>场下位</b> 国	70000-
K-42/B19L	K-42R/B19R		28	227	200	125	185	10.0			
M-42/B20L	M-42R/B20R		33	227	200	128	196	10.7		Rタイプ	インジケータ 取っ手
N-55/B24L	N-55R/B24R	12	36	227	200	128	237	13.2	フラット タイプ	⊕∷ ∷ ⊝ Lタイプ	防爆栓
Q-85/D23L	Q-85R/D23R		54	225	200	172	231	17.2		<b>⊕</b>	取付年月日シール 端子保護キャップ
S-95/D26L	S-95R/D26R		64	225	200	172	259	19.7			

極板種類:カルシウム

#### 自動車用バッテリー

トヨタ車専用バッテリー

# ECHNO[エクノ] EN 375LN2

EU地域の統一規格として制定されている「EN規格」を採用したトヨタ車専用バッテリーを開発しました。



#### 特長 1 トヨタ専用設計ならではの機能が充実

エンジンルーム、室内どちらにも搭載可能な「一括排気構造」、室内へのガス拡散を防止でき補水も可能な「液口栓」、 液面を確認できる「液面線」と「白電槽」など、トヨタ専用設計ならではの機能が充実しています。

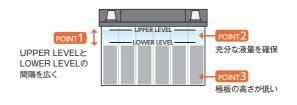
#### ポイント

- 補水が可能な液口栓
- ②エンジンルーム、室内、どちらも搭載可能な一括排気構造
- 3液面を確認できる液面線と白電槽
- 4ショート爆発のリスクを軽減する安全設計



## 特長 2 ショート爆発のリスクを軽減する安全設計

UPPER LEVELとLOWER LEVELの間隔を広くとることで、充分な液量を確保。これにより、液減りが原因のショート爆発のリスクを軽減します。トヨタ自動車の高い水準に合わせ、国内向けはより安全性を高めた仕様となっています。



### 特長 3 高容量

純正品の性能ランク(355LN2)と比べ、古河電池独自技術により、さらなる高容量化を実現しました(375LN2)。

#### ■ 要項表

バッテリー形式	電圧	20時間率容量	外形	寸法(約 m	nm)	液入質量	フタ形状	端子位置	アクセサリー
(品番)	(V)	(Ah)	総高さ	幅	長さ	(約 kg)	7 × 1151A	- 地丁区區	79699-
375LN2	12	60	190	175	242	15.8	フラットタイプ 一括排気構造 (防爆機能付き)	L91プ ⊝∷ ⊕	インジケータ 取っ手 取付年月日シール 端子保護キャップ

極板種類:カルシウム

### トピックス

#### 産業用蓄電池

# 独立型LIB電源ユニット Lithium ion Battery Power Supply Unit for Stand-alone

- 電源の制約がないので、屋外など自由な設置が可能
- 配線工事不要で工事のコスト削減
- 大容量の電気供給により、停電時でも稼働
- LIB用BMSによる最適運用
- コンパクトな電源ユニット

**\*BMS**: Battery Management System

#### ■仕様

#### ●電池部

電池電圧	48V系
電池容量	— (自動販売機を約24時間稼働可能)

#### ●電源部

出力電圧	単相AC100V
出力容量	1kVA

#### ■ 適用例

# 自販機用リチウムイオン電池ユニット

株式会社JR東日本ウォータービジネス様と共同開発

寸法	W 370mm × D 650mm × H 1,830mm
質量	約 200kg(電池モジュール込み)

東京駅丸の内北口中央線ホームへのエスカレータ横で運用試験中。



# より社会のニーズに応

# より環境に優しく

# 廃棄までを考慮した設計開発

自動車用バッテリーやニッケルカドミウム蓄電池などは自 治体の処理困難物に指定されていることが多いために使用 者には製造事業者が用意したルートでの処理が求められて います。MgBOX(マグボックス)シリーズは有害物を使用せ ず、さらに紙製の容器を採用したことで、一般的なゴミ処理 ルートでの廃棄を可能として廃棄段階までもユーザーの利 便性を考慮いたしました。(廃棄を受け入れる自治体に対し て、自治体での処理方法に関する広報説明も行いました)

# グリーン購入法適合品になりました

当社は、スマホ時代に適したグリーン購入法の見直しも必要と考え、特定調達品目に災害備蓄用品として「非常用携帯電源」という新たな提案を行いました。前述の廃棄までを考慮した設計思想が評価され、2017年2月7日には特定調達品目に「非常用携帯電源」を追加することが閣議決定されました。この改定により、MgBOXシリーズはグリーン購入法の適合品となりました。

国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律

(グリーン購入法)は、国などの公的 機関が率先して環境物品など(環 境負荷低減に資する製品・サービ ス)の調達を推進すると共に、環境 物品などに関する適切な情報提供



を促進することにより、需要の転換を図り、持続的な発展が可能な社会の構築を推進することを目指しています。

# 災害備蓄用品としての非常用携帯電源とは?

● 空気電池により発電し、携帯電話などの機器への充電・給電を目的とした非常用の電源をいう。

判断の基準 ①電気容量が100Wh以上であること ②保証期間または使用推奨期限が5年以上であること 配慮事項 分別が容易であって、再生利用および廃棄時の負荷軽減に配慮されていること

製品名	電池種	電気量	保証期間	スマートフォン 充電回数	分別
MgBOX (マグボックス)	マグネシウム 空気電池	300Wh	5年	30回 フル充電	容易に分別可。 外装には古紙を
MgBOX slim (マグボックス) スリム	マグネシウム 空気電池	200Wh	5年	20回 フル充電	利用し、使用後は リサイクル可能

本内容は、エコ商品ねっとにも掲載されています。

http://www.gpn.jp/econet/



# えるために



# 非常時に備えて、より安心、より安心、より安全なものを

### 消防防災製品等推奨に認定されました

MgBOXシリーズは他にも一般財団法人日本消防設備安全センターより、「消防防災製品等推奨」に認定されました。

消防防災製品等の推奨の対象となるのは、消防防災分野において有効に活用できることが見込まれるもので、新たに考案されもしくは改良開発されたもので、当該分野においての利便性、効率性または安全性の向上に寄与するものであることなどの一定の要件が満たされている製品です。



# 非常用携帯電源の活躍の場

# 熊本地震被災地に向けMgBOXを緊急出荷

東日本大震災では、当社のいわき事業所や東北支店も被災しましたが、その経験をもとに、非常用マグネシウム空気電池MgBOXを製品化し、普及活動に努めてまいりました。

熊本地震では、微力ながら被災された方々のお役に立てる 様にとの思いからMgBOX390個を熊本県内に寄贈させて いただきました。

この様な思い・活動は会社のみならず、社員にも浸透しており、若手社員らが中心となり寄付金を募るなど、被災経験者ゆえに気づく社会貢献への取り組みも行っています。



社長自ら寄贈品積込

# G7伊勢志摩サミットの国際メディアセンターに広報展示

2016年5月、G7伊勢志摩サミットの開催に併せて国際メディアセンター内に設置された政府広報展示スペースには、内閣府からの要請により「日本の技術披露の具体的発信と非常用電源として」当社の「MgBOX」が展示されました。





人事総務部では、グローバル人財の育成に注力しています。



▶ 人事総務部 部長

# 麻原 隆広

本研修は、グローバル人財育成教育の初期段階 として位置づけており、目的は「異文化を知る」ことに あります。

具体的には、言語、習慣、慣習、歴史、文化、思考、経済事情などの「違い」を知識だけでなく、実際に現地に赴いて、自分の目で見て、耳で聞き、鼻で匂いを嗅ぎ、口で味わい、言葉を発し、肌で感じて、何を思うか、何を感じるか、を大切にしています。



#### >> 今後の研修方針

グローバル化の波は海外だけではなく、国内にも急速に波及しています。時間はかかりますが、グローバル人財育成教育やそれに伴う人事ローテーションを通じて、「多様化」を受け容れられる職場環境づくり、企業風土の醸成に結び付けたいと考えています。





▶ サイアム・フルカワ社

# 下村 祐貴

タイ人スタッフとのコミュニケーション研修では、研修生のなかには英語があまり得意ではない人もおり、最初はコミュニケーションをとることに苦労していましたが、身振り手振りを交えて次第に意思疎通が図れる様になっていく研修生の姿がありました。

タイ人スタッフと直接会話することで、コミュニケーションをとることの難しさや語学力の重要性を学ぶよい機会になったと思います。

Voice

受講者の声

#### ▶ 環境推進部

# 蓮池 知佳



海外研修では、慣れない英語でコミュニケーションしなければなりません。現地従業員に、どうしたら伝わるか?何を伝えようとしているのか?を考えながらの会話は大変でしたが、充実した時間となりました。

また、市場の状態、歴史や食文化などを直接肌で感じ、日本と 比較しながら、コミュニケーションを取ることの重要性も再認識で きました。

この様な経験は海外展開を進める当社の若手社員にとって 大変に有意義であると思いました。

# 快挙! 古川シニアフェローが



# ガストンプランテメダル受賞

# 第10回鉛蓄電池国際会議LABAT2017 [International Conference on Lead-Acid Batteries]

2017年6月13日から16日に、ブルガリアのゴールデンサンズリゾートで開催されました第10回鉛蓄電池国際会議LABAT2017 International Conference on Lead-Acid Batteries」において、当社の古川淳シニアフェローが「THE GASTON PLANTÉ MEDAL」を受賞しました。この賞は、LABATが3年に一度、鉛蓄電池の研究・技術・開発の発展に最も貢献した研究者、技術者または団体

を選び、その功績を讃えるために、鉛蓄電池の発明者であるガストン・プランテの名を冠して創設した賞です。今回は、古川シニアフェローとDr. Papazovの2名に授与されましたが、古川シニアフェローの受賞は、日本人では京都大学の竹原善一郎名誉教授が2005年に授与されて以来二人目という快挙です。





# ガストンプランテメダル とは



ガストン・プランテはフランスの科学者で、1859年、布で絶縁した鉛板を巻きつけたものを硫酸の容器に浸した形の鉛蓄電池を発明。1860年には科学アカデミーに9列の蓄電池を公開するなどし、同氏の発明をベースに、鉛蓄電池は初期の電気自動車の動力として活用されました。

1989年、ブルガリア科学アカデミー(LABAT)は鉛蓄電池の改良に功績のあった科学者に贈るガストンプランテメダルを設けています。

# SOCIAL

「信頼される品質」のご提供などを通じて、 地域社会との関わりを深め、貢献しています。



# 品質向上に向けた取り組み

# 品質への取り組み事例

#### ■ISO9001/ISO14001マネジメントシステムの統合

2015年9月にISO9001(品質マネジメントシステム)と ISO14001(環境マネジメントシステム)の2015年版改正が ありました。

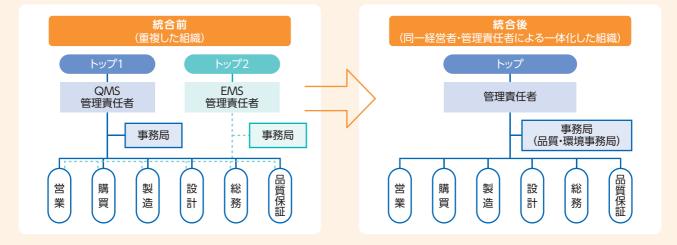
今回の改正にて、主たる項番が統一されましたので、当社では これを機に2016年4月より、両マネジメントシステムを統合し、経営

マネジメントシステムとして、一体運用を開始いたしました。

(ISO9001 : 2015年版 ⇒ 2016年8月認証登録 ISO14001:2015年版 ⇒ 2017年2月認証登録

⇒ 2017年7月統合審查受審)





それぞれのマネジメントシステムを統合することにより、個 別に行われている内部監査や定期審査を統合し、パフォーマン スの向上/業務の効率化(わかりやすく使いやすく、ムダの排 除、部分最適から全体最適へ)およびコスト削減(維持・管理作 業にかかる内部コストの軽減、審査回数の低減、審査工数の削 減)に結びつけることが狙いです。

また、本マネジメントシステムの運用が本格的に始まったことを受 け、2017年4月、新人社員研修において講習会を実施いたしました。

本教育の主旨は、品質/環境両側面(顧客満足、環境側面およ び遵守義務)を念頭においた「継続的改善」に取り組むべく基礎 を学ぶことにあります。



講習会の様子

## 全社QCサークル大会

2016年度の「第40回 全社QCサークル大会」をいわき事業 所において開催しました。

本大会は各ブロック大会を勝ち抜いたサークルを中心に計

12サークルが発表を行いました。

今年度も、QCサークル活動における基本理念、活動の狙い に立ち返る取り組みを推進してきました。

【基本理念】 1人間の能力を発揮し、無限の可能性を引き出す

2 人間性の尊重 ⇒ 生きがいのある、明るい職場づくり

3 企業の体質改善・発展への寄与

【活動の狙い】 1 能力の向上・自己実現 ⇒ 明るく活力に満ちた生きがいのある職場づくり

2 お客様の満足向上 ⇒ 社会への貢献

徳山社長(現会長)より、「第40回全社QCサークル大会を迎えるに当たり、準備に携わった方々、本大会にエントリーいただいたサークルの皆様、どうもありがとうございました。審査員一同、採点するのが苦痛になるくらい、皆さんのレベルの向上がみられました。これらの小集団活動の成果が反映され当社の品

質向上に大きく寄与されていることに深く感謝いたします」と の講評がありました。

引き続き、小さな改善を着実に積み上げ、さらなる品質向上に向けて、QC活動に取り組んでいきます。

※QCサークル・・・Quality Control(品質管理)の略 品質向上を目的として同じ職場内で結成されたグループ活動のこと



大会終了後の集合記念写真

#### FIBMファミリーデーを開催

2016年12月4日にバスで3時間程のボユール高原のパデポカン ベリーでFIBMファミリーデーを実施しました。

従業員249名が参加し、水球、布バレーなど仲間意識・協同

意識を高めるさまざまなゲームを行いました。

この様な活動を毎年実施するなかで団結力のあるすばらし い企業に育っていくものと考えています。



集合写真

※FIBM・・・フルカワ インドモービル バッテリー マニファクチャリング

#### 製品に対応するステークホルダーとの関わり

お客様第一の姿勢を基本として、お客様に満足いただける製品・サービスを追求します。

これに基づき、全社一丸となって品質の維持・向上と、新製品開発による社会貢献に重点を置いた事業活動を展開しています。

また、研究開発、生産技術、購買、営業などの各部門がそれぞれ

責任を持って品質保証に取り組んでいます。お客様に当社の技術 開発力や製品の特長をご理解いただき、これをもとにお客様と永 続的かつ強固な信頼関係を構築していくために、技術研究論文誌 「FBテクニカルニュース」の発行、展示会、製品カタログやホーム ページを通じて、積極的かつ継続的な情報発信に努めています。

#### 香港での技術セミナー講習会開催

2016年5月22日、自動車技術部として、香港の古河電池・ FB代理店である大昌貿易行様のお客様向けに自動車用バッテ リーの技術セミナー講習会を開催しました。

2013年に開催して以降、およそ3年ぶりのセミナー実施であり、約1時間半にわたり、およそ70名の方々に参加いただきましたが、参加者皆様とても熱心に耳を傾けていただき、質問も非常に多く大変有意義なセミナーとなりました。

質問の多くはアイドリングストップ車に関するものであり、日本ではとても多くの車に適用されていることを説明しました。日本から香港へ輸出される車にも今後増えてくることが予想されることから、FB製品であるUltraBatteryの商品説明も行い、香港市場でのFB製品のラインナップ拡大を狙いました。

セミナー終了後の食事会においても100名近くの方々に参加していただき、日ごろのFB製品の販売に対する御礼・情報交換などを行い、さらなる親睦を深めることができました。

翌日は市内のFB販売店、競合バッテリー販売店を巡回し、市場動向を調査しました。

本セミナーの開催により、香港市場でのFBブランド品の浸透、さらなる普及拡大に期待したいと願っています。



FB販売店風景



セミナー風景



食事会風景

### タイ工業省工場局より「CSR-DIW Award」を6年連続で受賞

サイアム・フルカワ社は、これまでのCSR活動への取り組み が評価され、タイ工業省工場局(DIW)より「CSR-DIW Continuous Award 2016」を受賞しました。

これは、2011年の[CSR-DIW Award]から数えて6年連続 での受賞となります。

タイ工業省工場局(DIW)では、現在レベル別での査定を中 断していますが、将来その査定が再開された際には、最高ラン

クのLevel 5(Green Network)を 受賞できる様、今後も積極的に CSR活動を行っていきます。

※当社は2013年に「CSR-DIW Advance Award Level 4 2013]を受賞しています ので、次のレベルは最高ランクのLevel 5と なります。



表彰状



受賞した従業員

# 「タイ優良労使関係・労働福祉賞」を11年連続で受賞

良好な労使関係が評価され、サイアム・フルカワ社は2016 年も、タイ労働者保護福祉局から「優良労使関係・労働福祉賞 (Excellent Establishment on Labour Relations and Welfare Award 2016)」を受賞しました。

2016年の受賞により、サイアム・フルカワ社は2006年から11 年連続での受賞となりました。これからも良好な労使関係を継続 していきます。



受賞した従業員と記念撮影





社内イベントの様子

# 「TPM優秀賞 カテゴリーA」を受賞

サイアム・フルカワ社は、これまでのTPM活動の成果が評価 され、社団法人日本プラントメンテナンス協会より、「TPM優秀 賞 カテゴリーA」を受賞しました。

今後も、このTPM活動を基盤に不断の現場改善を実践し、よ り高品質な製品づくりに取り組んでいきます。

※TPM (Total Productive Maintenance): 製造企業が持続的に利益を 確保できる体質づくりを目的として、人材育成や作業改善・設備改善を継 続的に実施していく体制と仕組みをつくるためのマネジメント手法。(全 員参加の生産保全・全員参加の生産経営)





受賞した従業員

# 地域社会に貢献する取り組み

### 栃木古河会「古河の森」植樹活動に参加

古河グループの企業団体「栃木古河会」は2016年4月21日、日光市足尾町松木地区の渓谷で植樹活動を行いました。日本のグランドキャニオンとよばれる景色が広がるなか、植樹作業に汗を流しました。この日は風もなく春らしい陽気に恵まれ、古河会の26社で77名が参加し大山桜の苗木40本を全員で植えました。1年に600㎡を目安に植樹を進め、20年かけて活動を行うもので、今回が第3回となります。今後もこうした地域の活動に参加し、栃木古河会の交流を深めていきたいと思います。



植樹活動の様子

# 健康づくりウォーキング大会に参加を加者の声



参加者集合写真

2016年10月8日、日光地区THP推進協議会主催で日光市 丸山公園にて行われた、第15回健康づくりウォーキング大会に 参加しました。この日は悪天候の雨のなか12社で総勢71名が 参加しました。丸山公園をスタートし所野運動公園を折り返し て丸山公園にゴールする片道4km往復8kmのコースを全員 が頑張ってウォーキングし完走しました。

ウォーキング終了後、恒例のアトラクションくじ引き大会で盛り上がり、怪我もなく無事に閉会しました。来年も自分の健康づくりのため、積極的に参加したいと思います。

### 「いわき古河会」地域の三崎公園で清掃活動

いわき市内の古河グループの企業団体「いわき古河会」は、 市内の観光名所の三崎公園(東京ドーム15倍の面積)で清掃 活動を行いました。

東日本大震災後に中断していた清掃活動を2015年から再開し、今回が2回目になります。

4月の晴天の下、関連企業14社の従業員や家族ら約130名が参加し、公園内に捨てられているペットボトル、空き缶、ビニールなどを分別しながらゴミ袋に入れて、子どもたちが公園でけがなどしない様雑草や木に隠れたゴミも丁寧に回収しました。



清掃の様子

## やっペ踊りに参加

いわき事業所は、いわき湯本温泉観光協会が主催するイベントの「やっぺ踊り大会」に参加しました。

「やっペ踊り大会」とは、常磐地区を盛り上げようという想いから震災後の2012年に再開したイベントであり、出場者は湯本街一円を「やっぺ、やっぺ、やっぺな〜」と躍動的に踊り流すものです。

いわき事業所は毎年出場しており、結果は見事に2015年が準優勝、そして2016年は元気のある若手社員を中心に約40名もの従業員が参加し、優勝という大きな成果をあげることができました。

これからも地域の復興や地域の皆様とのふれあいを大切に し、古河電池の発信力を高めていきます。



参加者集合写真

# ワールドエコノムーブについて



秋田県大潟村において、今年で24回目の開催となる2016WGC・ソーラーカーラリーを協賛しています。全44チームが参加し競い合いました。

玉川大学の出場に際し、世界初となる「ソーラーとマグネシウム空気電池のハイブリッドソーラーカー」の走行をサポートし、マグネシウム空気電池が燃料電池車へ搭載可能であることを示唆することができました。

参加者集合写真

#### 横浜・今市・いわきマラソン スポーツ協賛

当社は、本社がある横浜市、自然豊かな今市(日光市)と、いわき市に生産拠点が立地し、地元のマラソン大会に多くの従業員が参加しています。

横浜マラソンではランナーとして参加するほかにも、ボラン ティアスタッフとして大会をサポートしました。

2017年10月の横浜マラソン開催に向けて従業員が一つになれるイベントとして続けていきます。



ボランティア参加者

## Asia Cross Country Rally 2016に協賛

2016年8月に、タイのパタヤからカンボジアのアンコールワットを結ぶ総延長2,000kmの区間で開催された Asia Cross Country Rally 2016 に協賛しました。21回目を数えたアジア最大級の同大会において、当社からは太田取締役が前夜祭やセレモニーに参加し、また競技車両へのバッテリーの提供も行いました。

世界中から数多くの選手がエントリーするなか、二輪チームの TEAM FB JAPAN は見事チームアワード優勝を果たし、また TEAM FB INDONESIA の2名も完走を果たしました。

当社は2017年度の大会へも協賛予定です。引き続きアジア 地域におけるモータースポーツの発展に貢献していきたいと 考えています。





TEAM FB JAPAN

レースの様子

# 「キングスカップ・FBバッテリ・クワイ川ハーフマラソン・タイランドチャンピオンシップ2016」への協賛

サイアム・フルカワ社は、2016年12月11日にカンチャナブリ県で初めて開催された「キングスカップ・FBバッテリ・クワイ川ハーフ・マラソン・タイランドチャンピオンシップ2016」のメインスポンサーとして大会に協賛しました。

この大会はタイの陸上競技協会より「キングスカップ」という 名を付けることを許された唯一のハーフ・マラソン大会で、コー スは映画「戦場にかける橋」で有名なクワイ川鉄橋も含まれて おり、5千人以上のランナーが参加しました。

2017年は12月10日に開催予定であり、今後も冠イベントである本大会への協賛を継続していきます。

▶ https://www.facebook.com/riverkwaihalfmarathon/



マラソン大会参加者集合写真

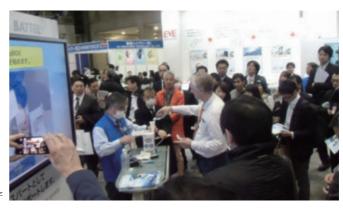


マラソン大会の様子

#### 国際二次電池展に出展

当社は、この1年で多くの展示会に参加しました。

なかでも来場者が最も多かった国際二次電池展では海外の方々にも当社のブースに関心を持っていただき、当社製品の紹介やこれまでの活動をアピールすることができました。



当社出展ブースの様子

### ハマロード・サポーターに認定



清掃の様子

本社は、2016年12月に横浜市保土ケ谷土木事務局よりハマロード・サポーターとして認定されました。地域のボランティア団体と行政が協働して、地域の身近な道路の美化や清掃などを行う制度です。

月に1度、10名ほどで清掃を行っています。通りがかりに温かい声をかけて下さる方もいらっしゃり、気持ちよく活動することができています。

企業は社会に生かされているという認識のもと、本社従業員 全員が本活動に参加することで、今後も継続的に地域社会へ 貢献していきたいと考えています。

# 森林清掃活動を実施

サイアム・フルカワ社では、2016年3月にカオヤイ国立公園の森林清掃活動を実施しました。

この活動には50名以上の従業員が参加し、約4kmの自然散策路を歩いてゴミ拾いを行い、また国立公園保護局にバッテ

リー60個を寄贈しました。

当社はこうした活動を継続することで地域社会に少しでも役に立てればと考えています。



ボランティア活動参加者集合写真



清掃の様子

# ENVIRONMENT

地域社会との関わりを深めると共に、 地球環境に配慮した取り組みを続けています。



# 地球環境に貢献する取り組み

# 古河電池(株) 環境方針と環境関連取組

■「古河電池(株) 環境方針」経営管理方針におけるEMS具体的取組

品質マネジメントシステムと環境マネジメントシステムが統合され、経営マネジメントマニュアルに基づいた活動が2016年度より開始されています。環境マネジメントシステムでは、CO2・

廃棄物などの著しい環境側面を低減させるための具体的な活動内容を以下に記載する。

- 1. 強固な経営基盤の実現の為に、地球環境保全及び持続可能な社会を構築する活動を積極的に展開する。具体的には、経営マネジメントシステムの浸透を通じて部門目標を明確化し、全員参加のマネジメントシステム推進の活動を徹底させる。
- 2. 部門の活動、製品及びサービスに関わる環境関連法規、自治体との協定等の順守はもとより、環境保全活動の継続的向上に努める。
- 3. 環境配慮型製品を積極的に市場に供給する為に、受注・契約、設計・開発、購買、製造、サービス提供の各分野において以下の項目を重点として、環境保全活動を推進する。
  - ① 地球温暖化防止のための省エネルギー活動
  - ② 資源の有効利用と環境負荷低減のための製品リサイクル、廃棄物の削減及び再資源化
  - ③ 環境保護のため、主原料である鉛、硫酸、カドミウム、苛性ソーダの効率的使用による省資源化
  - ④ 環境配慮型製品の開発及び積極的な広報と販売量拡大
  - ⑤ 環境経営への貢献、企業のイメージアップ
- 4. 古河電エグループとの連携強化により、生物多様性の取り組み及び有害物質管理等の管理を徹底し、その情報を開示する。
- 5. 環境方針を社内で働く協力会社を含むすべての人に周知するとともに、教育によって環境保護に関する意識の向上を図る。また、外部の協力会社にも伝達して協力を要請する。
- 6. 本方針は、外部からの要求に応じて、一般の人々にも開示する。

代表取締役社長



環境





# 資材·原材料※1

金属 37,000 t 化学物質 9,000 t



#### 化学物質※2 取扱量 203.0 t

水道水 88,367 t 工業用水 236,980 t 地下水 194,346 t

水



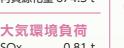
#### エネルギー

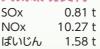
電気(購入電力) 69,230.2 MWh

LPG 2.328.3 t A重油 116.0 kl 54.5 kl 灯油 軽油 14.2 kl ガソリン 44.4 kl



廃棄物 総発生量 690.8 t 最終処分量 16.3 t 再資源化量 674.5 t







36.7 t



#### 地球温暖化ガス

電力\*339,445.5 t-CO2 燃料 7,572.0 t-CO2 合計 47,017.6 t-CO<sub>2</sub>



水

排水 196,110 t BOD 0.36 t SS 0.11 t



移動量





※1:蓄電池製造における主要な原材料

OUTPUT

- ※2:鉛・カドミウム・ニッケルおよびそれらの化合物以外の PRTR法に基づく化学物質
- ※3:電力のCO2排出換算係数は、各電力会社年度の係数を 使用しています
- ※4:2016年度に出荷した製品の概算出荷量です

#### CO₂排出量の推移

2016年度の総CO2排出量は、2010年度比約5.3%増加しました。 鉛蓄電池生産量原単位CO2排出量では、2010年度比約6.8%増加 した結果になりました。

※電力の $CO_2$ 排出換算係数は、年度比較のため0.378 (kg- $CO_2$ /kWh)を使用しています。

#### 【 鉛蓄電池生産量を原単位とした場合 】



#### 輸送効率の向上

当社は、2006年4月改正の省エネルギー法の特定荷主(3,000万キ ロトン)に指定されており、輸送効率の向上に取り組みました。

2016年度は、2010年度と比較して輸送に伴うCO2排出量は約8% 増加し、原単位では約28%増加(2010年度比)しました。引き続き輸送 効率のアップを行っていきます。

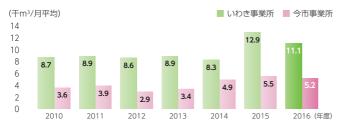
#### 【 製品輸送におけるCO<sub>2</sub>排出量】



#### 排水量の状況

排水量は、各事業所の所在自治体との協定値内で推移・維持して います。

#### 【排水量推移】



#### 廃棄物の状況

2016年度の全廃棄物に対するリサイクル処理の割合は、97.6%で した。今後ともリサイクル処理を推進すると共に、廃棄物の発生抑制に も努めます。

#### 【 廃棄物の総量およびリサイクル率の推移 】



#### 活動目標と成果

2016年度は以下の環境目標に基づき活動しました。

(2)	:達成	q	:未達成
9	-X1-120		·//X±/30

方針	目標(2016年度)	評価
少次体 114.7万11	鉛くず率2013年度比3%以上の低減	<u>¥</u>
省資源・リサイクル	全廃棄物の95%以上をリサイクル処理(熱回収を含む)する	$\Theta$
ᄮᄯᄱᅈᄼᄼᄱ	2013年度電気原単位3%目標	<b>x</b>
地球温暖化防止	CO2排出量の原単位2013年度より3%目標	<u>¥</u>
エコデザイン活動	環境負荷低減製品の製品化 全所7件以上/年度	

#### PRTR法対象物質の排出・移動量

PRTR法 (特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律)による2016年度の調査量を示します。引き続き排出量の削減に努めます。

事業 所名	化学物質の名称	排出量合計 (kg/年)	移動量合計 (kg/年)
	アンチモン及びその化合物	0.0	22.8
い	カドミウム	0.9	21,371.1
わ	塩化第二鉄	0.0	0.0
き	コバルト及びその化合物	1.0	711.9
事	鉛化合物	12.9	5,181.8
業	ニッケル	3.9	2,461.4
所	ニッケル化合物	10.5	6,482.8
	砒素及びその無機化合物	0.0	1.5

事業所名	化学物質の名称	排出量合計 (kg/年)	移動量合計 (kg/年)
	アンチモン及び化合物	1.2	0.0
今	塩化第二鉄	0.0	0.0
市事	トルエン	2,084.6	0.0
業	鉛化合物	71.9	213.6
所	砒素及び無機化合物	0.3	0.0
	メチルナフタレン	7.2	0.0

※排出量…大気・公共用水域への排出 移動量…廃棄物委託量

### 製品に含有する化学物質への対応

当社、環境推進部と資材部門では、主要な原材料メーカー様を訪問し、工程の確認と製品中の有害化学物質に関する、ヒアリングや情報交換を実施しています。

お客様による製品含有化学物質管理状況の確認や監査などにも対応しています。引き続き、製品中の含有化学物質に関する管理を実施していきます。

また、欧州を中心とする改正WEEE指令やRoHS指令などに対応した製品に含有する化学物質の管理および情報提供も実施しています。

なお、改正WEEE指令(2002/96/EC)第8条2項には、環境に有害な影響を与える可能性のある部材は、回収された電気・電子機器(以下、機器と称す)を本格的に処理する前に取り外し別処理することが義務化されています。

同指令の付録書VIIに、これらの部材がリストアップされており、電池もこのリストに含まれていますので、事前に取り外された電池のその後の処理は、電池指令で規制されます。

また、改正RoHS指令(2011/65/EU)では、前文(14)項に、

以下の記載があり、電池指令が、優先して適用されることが明記されています。

(14)この指令は、安全衛生上の要件及び特定のEUの廃棄物管理法、特に電池及び廃電池に関する2006年9月6日付け欧州議会及び閣僚理事会の指令2006/66/ECと規則(EC)No850/2004を侵害することなく適用されます。

RoHS指令からの電池の除外は、2006年9月26日発行の新電池指令(2006/66/EC)でも、前文(29)項に以下の様に記載されています。

(29)2003年1月27日付けRoHS指令(2002/95/EC)は、機器に使用される電池には適用されません。

以上のことから、電池はRoHS指令の対象外との認識のもと 情報提供に努めています。

一般社団法人電池工業会のホームページにも同様のポジ ションペーパーが掲載されています。

▶ http://www.baj.or.jp/recycle/recycle09.html

#### 学校教育支援活動

蓄電池メーカーである当社は、将来エネルギーを有効に利用でき、地球環境および職場環境にも配慮できる人財を育成することも使命であると考え、教育プログラムを定め次世代を担う学生や子どもたちへの教育を継続的に支援しています。

今後も地域社会や教育現場などからのニーズに対応することはもちろん、多くの学生や子どもたちに学びの場を提供できる様に、積極的に支援活動に取り組んでいきます。

#### ■ いわき市、日光市の小学校で環境教室を開催

小学生を対象とした出張環境教室では、2012年からエネルギー教室を開始し、2015年からは理科教室を加えた教育を継続的に開催しています。2016年度は、福島県いわき市では3校、栃木県日光市では1校の4~6年生を対象に、合計約290名に対して教室を開催しました。エネルギー教室では、「再生可能エネルギーを利用するこれからの仕組み」をテーマとして、日常生活



で使用されている蓄電池がどの様な時に役立つのかについて 説明しました。また小型風力発電キットを使って発電の仕組みや エネルギーを蓄える必要性を体験してもらい、蓄電池の重要性 と可能性について理解を深める場を提供しました。

理科教室では、「ものづくりと環境」をテーマに、マグネシウム 空気電池を身近な牛乳パックで作り、電池の仕組みをわかりや すく解説しました。さらにはマグネシウム空気電池の特徴を活か した実験も加え、より興味を持てる様に工夫しました。

2016年8月には関西エアポート株式会社様が主催した関西国際空港サイエンス教室でもこの理科教室を開催しました。小学3~6年生と保護者の方、合計約90名の参加者には、できた電池に対して一緒に疑問を持ち、解決していくことを楽しんでいただきました。理科教室の開催は、科学やものづくりへの興味喚起と環境保全について考えるきっかけづくりの一つの場を提供することで技術大国ニッポンを支える小さな活動になればと考えています。

#### ■ 中学・高校生対象、いわき志塾への講師として参加

技術開発部門では、2016年7月30日にいわきグローバルアカデミー第2回「いわき志塾」に講師として参加し、中高生に対して現在の仕事を選ぶまでに至った人生の転機や失敗談、その失敗が今の仕事にどう活かせているかなどについて話をし、将

来に期待と不安を持つ生徒たちにエールを送りました。講話のなかでも特に「世界スカウトジャンボリー」に参加した時の話が生徒たちに大盛況であったことに加え、グローバルコミュニケーションの大切さについても伝えることができました。

#### ■ 高専・大学生へインターンシップを実施

UB事業統括部門では、短期と長期の2種類のインターンシップを受け入れています。

短期のインターンシップでは、大学生および高専生を対象に2週間にわたって実際の仕事を補助してもらうことで仕事や職場の雰囲気を肌で感じてもらい、「社会人になるとはどういうことなのか」を考えてもらう機会を提供しています。

長期のインターンシップでは、大学生を対象に4ヶ月という 長い期間、鉛蓄電池の開発現場で一つの課題研究テーマに取 り組んでもらうことで、決められた期間で成果を出すことの難 しさや学生と社会人の違い、コミュニケーションの大切さ、安 全第一の精神などを学び、今後の研究生活や就職活動に活か してもらえる機会を提供しています。

環境推進部門では、大学生を対象としたインターンシップと 小学生を対象とした出張環境教室を実施しています。

大学生を対象としたインターンシップでは、作業環境測定実

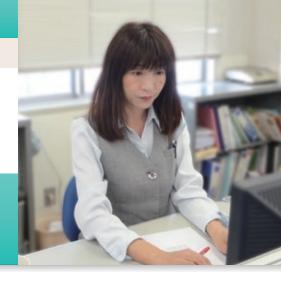
習と労働安全衛生についての説明を通して、実際に行われている作業環境測定を体験することだけでなく、安全と労働衛生の3管理(作業管理・作業環境管理・健康管理)の重要性について学んでもらい、将来のビジョンを明確に持ってもらえる機会を提供しています。



作業環境測定 実習の様子

# GOVERNANCE

法律と企業倫理の遵守を徹底し、未来に向けた挑戦を続け成長していきます。



# ガバナンスが機能する体制

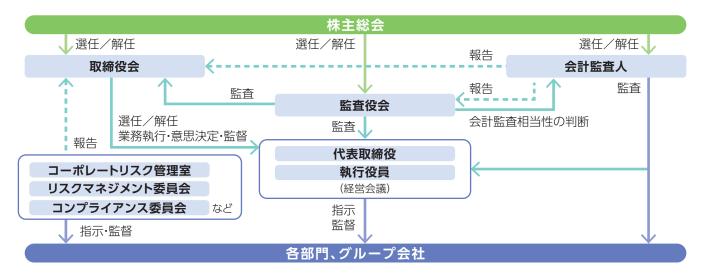
# コーポレート・ガバナンス

#### ■コーポレート・ガバナンスの体制

2012年6月より、迅速で効率的な経営を可能とするために執行役員制度を導入し、経営監視機能と業務執行機能を分離し、取締役会は経営の意思決定と業務執行を監督する機関として位置づけ、業務執行機能との分離を図りました。経営意思決定に関しましては、取締役会を毎月1回定期的に開催し、社外取締役2名を含む取締役12名、および社外監査役2名を含む監査役4名が出席して十分な審議が行われる体制とし、また、必要のある場合

は臨時取締役会を開催し対応できる体制としています。監査機能の向上のため、監査役付を選任し、監査役の監査業務のサポート体制を整えています。業務執行に関しては、取締役、執行役員、常勤監査役が出席する経営会議や業務連絡会を開催し、迅速化、効率化を図っています。

なお、当社は東京証券取引所に「コーポレートガバナンス報告書」を提出しています。



#### ■ 内部統制

当社およびグループ会社における業務の効率性・有効性の推進、法令などの遵守、財務報告の信頼性確保、資産の保全を図り、企業価値の維持・向上に資することを目的として、内部統制基本規程を定めています。

当該目的達成のために、コーポレートリスク管理室、リスクマネジメント委員会、コンプライアンス委員会などを設け、内部統制の整備に努めています。

#### ■ 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方

古河電気工業株式会社のグループ会社として、「古河電工グループCSR行動規範」を行動規範として掲げています。そのなかで、反社会的勢力に対し毅然とした態度で対応することが明記されています。

また、当社自身のコンプライアンス規程でも、社会の安全・秩序を脅かす反社会的勢力については、「毅然とした態度で対応する」を取締役会で決定した上で、コンプライアンス行動指針として定めています。

## 公正公平な調達

### ■ CSR調達・お取引先様との連携

当社は、原材料・部品、設備などの調達においては、お取引先様とよりよいパートナーシップを築き、公正・健全な環境のなか

で共に発展し、社会的責任を果たすため、以下の調達方針に従って進めていきます。

### ■ CSR調達基本方針

- (1) 法令・社会規範などを遵守します。
- (2) すべてのお取引先様とのよりよいパートナーシップをもとに相互理解と信頼関係を大切にします。
- (3) すべてのお取引先様に対して常に公平で、公正なお取引を行います。
- (4) お取引先様・調達品選定などの際には、資材の品質・価格・経営の信頼性や技術開発力、環境配慮などの評価と適正な手続きによって行います。
- (5) お取引先様のご希望には誠実に対応し、取引に必要な情報をお知らせします。 同時に、お取引先様からの情報も求めており、ご提供いた

だいた営業秘密は厳格に管理し、機密保持に努めます。

#### 調達活動指針

### 社会的責任

- 調達活動を行うにあたり、「真に豊かで持続可能な社会の実現」への貢献を目指します。
- ●基本的人権を尊重し、労働環境や安全衛生に配慮した調達活動を推進します。
- 地球環境に配慮した調達活動を推進します。
- 社会との共生に向けた社会貢献への取り組みを推進します。

## 公平・公正な調達

- •調達物品の品質、価格、納期、その企業経営の安定性、技術開発力、 製造・供給能力、環境保全への取り 組みなど、自由な競争に基づく合 理的な選定基準に基づき、公正に お取引先様を決定します。
- 国の内外問わず、お取引先様には 公平に競争の機会を提供します。



### 遵法•倫理

- ●法令・社会規範を遵守し、その精神を尊重した上で調達活動を行います。
- 調達活動を通じて知り得たお取引先様の機密情報を守秘します。また第三者の知的財産などの権利を侵害する様な調達活動は行いません。
- 調達活動を行うにあたり、当社製品・サービスの 販売を目的とする相互取引は行いません。
- 不当な利益の取得を目的とした、お取引先様との 接待・贈答・金銭などの授受は行いません。

#### ■ グリーン調達

当社は、循環型社会づくりを担う一員として、環境負荷の低い原材料・部品などの調達=グリーン調達を、積極的に推進しています。グリーン調達の適用範囲は、モジュールなどの半製品や部品類に加え、粘着テープや接着剤などのフロンや代替フロンについても、部品自体への含有だけではなく、副資材もその対象とし

ており、製造工程においても使用禁止を徹底しています。

また、部品などの納入に際しては、当社指定のグリーン調達調 査票をお取引先の皆様にご提出いただき、管理の徹底を図って います。

#### ■お取引先様の監査

当社は、原材料や部品の調達において品質保証部門、技術部門および資材調達部門が合同でお取引先様の定期的な監査を実施しています。当該監査では、製品の品質のみならず労働安全衛生や工場環境などの項目についても監査を実施します。現場・現物で確認する監査を行うことで、改善に向けた具体的な事項について意見交換や指摘をすることもでき、お取引先様と当社間での品質、労働安全衛生、工場環境に関する意識ならびに取り組みの共有化を図っています。

当社では、この様な活動を通じ、お取引先様との信頼関係を構築することにより、継続的な取引関係の確立を目指しています。



お取引先様との記念写真

## 古河電エグループCSR行動規範遵守

古河電エグループ会社は、「公正と誠実を基本に、常に社会の期待と信頼に応え続ける」ことを経営理念として実現するために、役員・従業員一人ひとりが「常に高い倫理観を持ち、公正、誠実に行動する」ことを行動指針として掲げています。

これらに基づいた企業活動を展開するにあたって、企業の社会的責任(CSR)という観点から、役員・従業員の取るべき基本的行動の規範として、「古河電工グループCSR行動規範」を定

め、これを遵守しています。

当社およびグループ会社では、すべての従業員が毎年「古河電工グループCSR行動規範」の実践を確認し、コンプライアンス意識を常に持った風通しのいい職場をつくり、役員・従業員一人ひとりが、ステークホルダーからの熱い期待に応えられる様、当社およびグループ会社一丸となって、取り組んでいます。

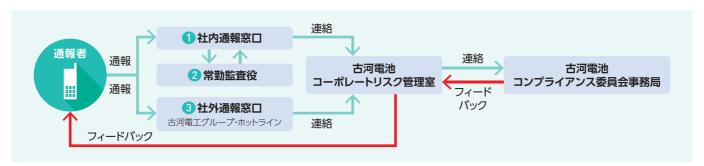
## 通報窓口の設定

当社およびグループ会社内でコンプライアンスに違反する 行為やその恐れがある場合は、違反行為を未然に防止できる 様、役員・従業員がコーポレートリスク管理室に直接通報できる 仕組みを構築しています。

通報窓口は、「**①社内通報窓口**」と、**②匿名窓口**として「常勤監査役」、および**③匿名**での通報も可能な第三者機関を利用した

「社外通報窓口(古河電工グループ・ホットライン)」の3か所を 設置しています。

いずれの窓口の情報もコーポレートリスク管理室に集約され、通報者の保護に十分配慮しつつ迅速に事案対応が図れる 仕組みを構築しています。



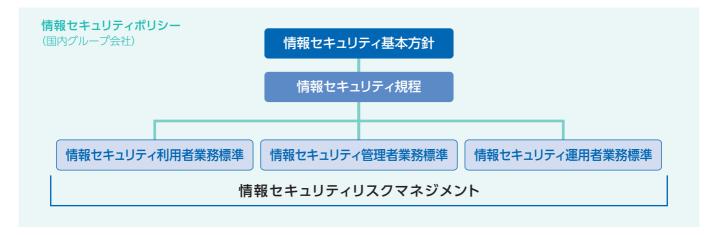
## 情報セキュリティ体制

古河電池グループでは、「情報セキュリティ基本方針」を定め 社会的責任の重要な役割として、情報セキュリティポリシーを 遵守し、適正な情報管理と情報活用に取り組んでいます。

また、古河電池グループでは情報セキュリティ管理体制を構築し、情報セキュリティに関するリスクマネジメント計画を策定して、社会変化に応じて積極的な情報セキュリティ施策を実施しています。

#### ■サイバー攻撃への対策

当社グループでは、イントラネットで接続された情報資産のセキュリティを確保するために、24時間365日体制でネットワーク監視を行っています。マルウェアなど進化するサイバー攻撃に対し、早期に検出して迅速にリスクを排除する体制を構築しています。また、従業員に対し標的型メール攻撃訓練を実施して、不審なメールに対する従業員の注意意識を高め、情報セキュリティの啓発に取り組んでいます。



## 職場環境改善の取り組み

## 全社安全衛生活動

安全が何よりも優先されるという経営トップの強い意思のも とで全社安全衛生活動方針を発信し、それぞれの組織が課題 や目標を決めて安全衛生に対する取り組みを展開しています。 2016年度の組織改正により、安全推進室が発足し、安全活

動に特化した取り組みを推進しています。働く一人ひとりが常 に安全を意識してルールに従った行動ができる様、毎日の安全 唱和とゼロ災コールを続けています。

### ■2017年度全社安全衛生活動

### 1. 基本方針

安全が何よりも優先されるという文化を定着させ、心と体に安全で快適な職場環境を構築する

## 2. スローガン

安全衛生をすべてに優先させ、トップの決意でゼロ災害とゼロ疾病

## 3. 重点目標

- (1) 安全関係
  - ①休業・不休業災害:ゼロ ②ヒヤリハット報告:1件以上/月・人 ③挨拶と指差呼称:100%の実施
  - ④人と設備の分離、人と車の分離による5段階の安全レベル:3以上 ⑤通勤出張時の交通災害:ゼロ
- (2) 環境・衛牛関係
  - ①第1作業管理区分:100%への改善②過重労働防止:総労働時間短縮 ③熱中症予防対策推進

## 4. 主要施策

- (1) 本質安全化により災害リスクを低減 (2) コミュニケーションによる安全人間の育成
- (3) 作業環境の改善と維持管理
- (4) 安全衛生標準の周知とマネジメントシステムに基づく自主管理
- (5) 従業員の心と体の健康保持、増進

#### 5. 実施とフォロー

- (1) 各部門は、全社安全衛生活動方針に基づき、安全衛生施策を計画し実施する。
- (2) 月次の安全衛生委員会にてフォローの場を設け実施状況をフォローする。
- (3) 内部監査による監査および労使安全衛生巡回にて安全衛生活動についてマネジメントレビューする。

#### ■主要施策

コミュニケーションによる安全人間の育成への取り組み事例



フォークリフト免許保持者に社内筆記試験と 技能講習により運転許可



挨拶と指差呼称の声かけ運動の様子



KYTリーダー養成講義の様子

※KYT・・・危険予知トレーニング

## 人財育成の取り組み

## 人財育成の基本的な考え(教育研修で目指すこと)

人事総務部では長期経営ビジョンに示された人事課題を念頭に置き、グローバル人財の育成に注力しています。

2016年度は海外若手社員研修や、中堅社員を対象としたキャリア・マネジメント研修などの教育を実施しました。

2017年度は「グローバル人財の育成」という大きなテーマは継続しつつ、それを実現するための具体的施策として、Eラーニングの導入などを中心とした研修効果の"見える化"に取り組みます。

## 【2016年度に実施した研修】

新入社員研修OJTトレーナー研修新入社員フォローアップ研修2年目研修海外若手社員研修新任管理職研修

中堅社員キャリア・マネジメント研修

次期役員候補者研修 通信教育(自己啓発支援)



2016年度 新入社員研修の様子

## ■ 今後の継続性

長期経営ビジョンに示される通り、人財教育、人財育成は企業としての最重要投資と位置付け、今後も積極的に継続していきます。

## ■ 教育事務局の行動指針

「永年にわたり培ってきた技術力を核とし、これの絶え間ない革新により、真に豊かで持続可能な社会の実現に貢献する」という当社の基本理念に基づき、教育事務局の行動指針を定めています。具体的には、「私たちは挑戦者である。」を教育行動方針として、一人ひとりの社員が個々のスキルを向上させることができる

よう各種研修などで社員をサポートしています。高い挑戦者意欲 と幅広い視野で各々が会社を伸ばすような教育体系を整備し、各 種研修において、職能資格や推薦選抜毎に求められる職務遂行 能力が身に付くよう研修内容を毎年改善し、目標達成意識の啓発 につなげています。

## 雇用方針と採用活動

従業員の雇用については、長期的、安定的な雇用確保に努めると共に、従業員が働きがいを感じ、安心して働ける職場環境の実現や、仕組みづくりを構築しています。少子高齢化が進む

なか、毎年の状況変化を考慮した新卒・中途採用、障がいのある方の採用、定年退職者の継続雇用、グループ会社間の出向、派遣など多様な方々についての働き方を提案していきます。

#### 次代を担う新卒者の採用

古河電工グループの一員として、古河電工グループフォーラムに参加しています。また、各大学を訪問して会社説明会を 実施し、人財の確保に注力しています。採用スタイルは、地域・ 国籍を問わず面接を重視した人物本位の採用方法で、毎年個 性豊かな学生を採用しています。2016年度は30名の新入社員を採用しました。また、社会貢献活動の一環として、横浜本社といわき事業所において、インターンシップの受け入れを行いました。

## 実力重視の中途採用

グローバル化を推進するなかで欠かせないのが、高い専門能力と人財の多様性です。当社では、さまざまな職務経験・専門知

識の豊富な経験者を採用しています。2016年度は31名の中途 採用を実現しました。

## 【雇用状況】

従業員数	917名
平均年齢	40.33歳
平均勤続年数	14.69年

新卒採用[2016年度採用実績]	30名	
中途採用[2016年度採用実績]	31名	
	(2017年3月末現在	

## 入社2~4年目の従業員の声

入社式からの1ヶ月間、新入社員研修を受講しました。研修では グループワークがあり、皆で意見を出し合い準備を進め、研修最終日にプレゼンテーションを行いました。この研修を通して、協力 して一つのものを作り上げる喜びや達成感を味わうことができ、 コミュニケーションの重要性を学ぶことができました。研修で得た ことを忘れずに、日々の業務に活かしていきたいです。



産業機器技術部 技術1グループ

## 小松 慶子

(2016年入社)



入社2年目の研修では、仕事で成果を上げるための手法や心得を学びました。

【ロジカルシンキング】の研修では、チームで必要な情報の共有を行い一つの結論を出すプロセスを学び、チームワークの良し悪しが仕事の成果に与える影響を実感しました。

この研修で得たことを業務に活かし、成果を上げられる人財へ と成長していきたいと思います。

産機第一営業部

## 岩田 正幸

(2015年入社)

3年目は、グローバル社会の一員であることを自覚し、広い視野を持って仕事に取り込むための知見を習得することを目的に、タイで研修が行われました。現地では、サイアム・フルカワ社の従業員との対話、市内視察などを通して異国の文化や状況を肌で感じ日本との違いを学ぶことができました。今後は日々の業務での考え方などを当たり前だとは思わず、多角的視点を持って進めていきたいと思います。

電源製造部 設計グループ

## 塚本 翔太

(2014年入社)



## 多様な働き方を支援する取り組み

当社では、従業員一人ひとりのライフスタイルを尊重し、従業員の「ワーク・ライフ・バランス」を可能にする取り組みを実施しています。各種支援制度は、法に則り定めていますが、働きや

すい環境の提供や労働時間の削減をするために2017年度も 改定を行うべく検討を進めています。

## ■ 各種制度

項目		主な制度	内容		
母体保護	1	面談制度	従業員本人が安心して産休に入り、職場復帰できるよう、面談制度を設けています。(産休前、復帰直前、復帰後)		
	2	妊娠通院休暇	従業員本人より、検診や保健指導のために通院を目的として申し出た場合は、従来の年次定例 休暇とは別に休暇を取得することができます。		
	3	つわり休暇	つわりにより就業が著しく困難な場合は、10日を上限としてつわり休暇(無給)が取得できます。		
育児	4	産前産後・育児関連パンフレット配布	関連制度や手続きなどをまとめ、従業員に周知しています。		
	5	育児休業	最長で子が満2歳に達する年の年度末から1ヶ月後まで取得することができます。(原則は満1歳 1ヶ月に達するまで)		
	6	育児短時間勤務	6時間の勤務時間を確保することができれば、最長で子が小学校4年生の始期に達するまで短時間勤務を行うことができます。		
	7	子の看護休暇	子が小学校4年生の始期に達するまで1年間で5日、2人以上の場合は1年間で10日を限度として取得することができます。(無給)		
	8	男性育児短期休暇	慶弔休暇とは別に、子が満1歳1ヶ月に達するまで日単位で5日間取得することができます。		
介護	9	仕事と介護の両立パンフレット配布	関連制度や手続きなどをまとめ、従業員に周知しています。		
	10	介護休業	暦日で1年間、3回を上限として分割して取得することができます。		
	11	介護休暇	対象者が1人の場合は1年間に5日、2人以上の場合は1年間に10日、全日、半日、時間単位で休暇を取得することができます。(無給)		
	12	介護短時間勤務	6時間の勤務時間を確保することができれば、暦日で1年間を限度として短時間勤務を行うことができます。		
有給休暇	13	時間単位有給休暇	全日・半日単位のほかに、1日4時間を限度として1時間単位で取得することができます。		
	14	2連続取得推進	心身のリフレッシュを図るため、年次定例休暇の2連続取得を推進しています。		
	15	積立休暇	毎年の年次定例休暇の残日数を、10年間で最大50日保有が可能。家族の介護・看護や私傷病の治療、自己啓発やボランティアに使用することができます。		
	16	ノー残業デーの実施	毎月第2水曜日を全社の一斉退社日としています。		
その他	17	家庭事情退職者再雇用制度	結婚・出産・育児・配偶者の転勤・家族の介護・自身の治療でやむを得ず退職した従業員の再雇 用登録制度です。		
	18	継続雇用嘱託制度	60歳定年に達した従業員を対象に再雇用希望者全員と継続雇用嘱託契約を結び、65歳まで働ける環境を整えています。		

## 子育てサポート企業の証「くるみん」を取得

2016年10月25日に厚生労働大臣より「子育てサポート企業」として、「くるみん」の認定を取得しました。

当社では、過去2年間の育児休業復職率が100%を達成し、また初めて男性も育児休業を取得いたしました。そのほかには育児短時間勤務制度の期間拡大や月1回のノー残業デーの実施、年次定例休暇取得促進などを行い、子育てをしながらでも

最大限に能力を発揮し、安心して働き続けられる制度を整えています。

引き続き、社員が仕事と子育てを両立させることができ、社員全員が安心して働ける職場環境づくりを行い、すべての社員がその能力を十分に発揮できるよう努めていきます。





## ▶ 育児休業制度利用者の声

このたび、2度目の産休・育休制度を利用させていただくことになりました。ここまで安心して働き続けられたのは、第一子出産後の職場復帰時より、時短勤務制度を利用し家庭と仕事のどちらの時間もバランスよく確保することができ、大切に過ごすことができたこと、また、日ごろからご理解とサポートをして下さった周囲の方々のお陰です。今後も子どもたちからエネルギーをもら

いながら、限られた時間の なかで成果を挙げられる様 努めていきます。

> <sup>産機第一営業部</sup> 加藤 結香



当初、1年間の育児休業の予定でしたが、保育園に入ることができず、保育園に入園できるまで延長してお休みをいただいています。

慣れない場所での初めての育児に不安も多くありましたが、 1年数ヶ月もの間、本制度を利用し、子育てに専念できた今では、息子との慌ただしい毎日を楽しめる様になりました。

復職後は、息子をはじめ多くの人に当たり前の様に使ってもら

える電池を創ることを目標 に、開発の仕事を続けてい きたいと思っています。

> 技術開発統括部 研究部

小出 彩乃



## 「トモニンマーク」の取得



当社では、仕事と介護を両立できる職場環境の整備促進の趣旨に賛同していることを示すシンボルマークである「トモニンマーク」を取得しました。2017年1月には介護関連制

度や手続きなどをまとめた「仕事と介護の両立パンフレット」を 作成し、従業員への周知を行っています。今後も取り組みを充 実させ、従業員が仕事と介護を両立させ、安心して働ける職場 環境づくりに努めていきます。

## VOICE 海外で

### 海外でも古河電池製品の活躍のために!!

私は、入社22年目で工事部門の仕事を担当しています。

2016年10月から2017年1月の期間に、インドネシアのスルヤチプタ 工業団地で実施されているNEDO(国立研究開発法人 新エネルギー・ 産業技術総合開発機構)のスマートコミュニティ実証の設備に、富士電機 株式会社様経由で直流電源装置およびUPS用蓄電池を納入しました。

現地では作業員に日本語・英語が通じず、施工内容を説明する時や、 組み立て手順を伝える時はいろいろ考えて工夫してを繰り返し大変苦 労しました。

それでも現地の作業員はこちらの言葉を理解しようとしてくれて、工事が進むにつれてコミュニケーションが取れる様になり、計画どおり無事に工事完了することができました。



## 労使相互信頼

当社では、管理職・有期契約以外の従業員は労働組合に加入しています。経営の円滑な運営と事業の発展、労働条件の向上を図るには、労使のコミュニケーションは必要不可欠なものです。そのため当社では、事業計画や決算について説明を行う中央経営説明会を年2回実施しています。また、各事業本部単位の月次損益の説明を行う労使懇談会、課題解決のための労使小委員会を月1回程度実施し、さらには労使による各事業所の安全衛生巡回も年2回実施しています。この様にあらゆる「場」で労使による相互信頼を深めるために、対話の機会を設けています。



安全衛生巡回の様子

## 定年後の会社との関わり

当社では、定年退職した従業員に対して「古河電池 OB会」を組織しています。毎年10月に横浜・日光・いわきの3地区において定期総会を行っています。総会では会員の状況確認、長寿祝い、決算報告などを行っており、総会に続いての懇親会では、会員相互の親睦を深めると共に、当社の最新情報の提供などを行っています。

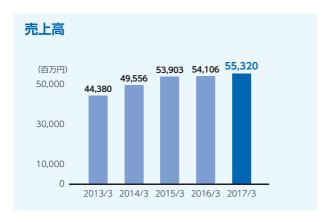


2016年度古河電池OB会定期総会(いわき)

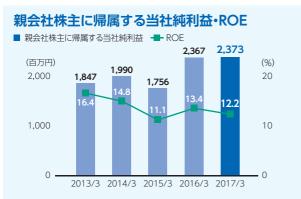
# 財務ハイライト(含表示年の3月期もしくは3月期末現在)

2017年3月期の当社グループは、鉛事業を中心に製品の品質 向上および技術開発を継続して行うと共に、ベトナムにおける蓄 電池メーカーの株式を取得するなど積極的な事業展開を行いま

した。国内における補修用電池の販売やタイ子会社における自動 車用鉛蓄電池の販売が好調に推移したこともあり、売上高、営業 利益、当期純利益は前期から増加し、増収増益となりました。

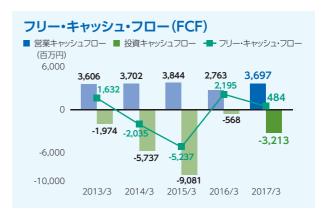
















## ■ 海外売上高

海外売上高は、184億29百万円でした。当社の海外売上は、主として当社および海外子会社のサイアム・フルカワ社の行っ

ている自動車用および二輪車用の鉛蓄電池の本邦以外の地域への売上です。

## ●海外売上高/海外売上高比率

	2013年3月期	2014年3月期	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期
売上高	44,380	49,556	53,903	54,106	55,320
地域別売上高					
日本	32,739	34,305	35,286	36,201	36,891
アジア	10,414	13,679	16,050	15,589	16,609
その他	1,226	1,572	2,567	2,315	1,820
海外売上高比率	26.2%	30.8 %	34.5 %	33.1 %	33.3 %



## 古河電池の概要

## 信頼に応える技術・製品で豊かな社会の実現に貢献します。

## ■ 会社概要

商号 古河電池株式会社

(The Furukawa Battery CO., LTD.)

本社所在地 〒240-0006

神奈川県横浜市保土ケ谷区星川二丁目4番1号

(星川SFビル)

設立 1950年(昭和25年)9月1日

(古河電気工業株式会社の電池部門が独立)

代表取締役社長 小野 眞一

資本金 16億4,000万円(2017年3月末現在)

従業員数 2,393名(連結)、917名(単体)

(2017年3月末現在)

#### ●主要営業品目

#### 鉛蓄電池

自動車用、二輪車用、電動三・四輪車用、鉄道車両用、航空機用、船舶 用、非常照明用、電話交換機用、情報関連用、UPS用、セキュリティ用、 新エネルギー用、電力貯蔵用

#### アルカリ蓄電池ほか

計測機器用、人工衛星用、火災報知機用、非常放送用、シャッター用、 航空機用、鉄道車両用など

#### 電源装置

直流電源装置、無停電電源装置、インバーターなど

#### その他

コンバーター、バッテリーチャージャー、蓄電池診断装置、バッテリーテスター、MgBOX、電気工事、電気通信工事、独立型LIB電源ユニットなど

## ■グループ会社の紹介

#### ●自動車用バッテリー販売

古河電池販売株式会社 新潟古河バッテリー株式会社

#### ●自動車用

バッテリー製造・販売

サイアム・フルカワ社(タイ)

フルカワ インドモービル バッテリー マニュファクチャリング (インドネシア)

#### ●その他

第一技研工業株式会社 HDホールディングス株式会社 エフビーファイナンス株式会社 エフビーパッケージ株式会社 株式会社ABRI

## ■沿革

1914年 古河電気工業株式会社 兵庫県尼崎市に電池製作所を開設

1937年 古河電気工業株式会社

電池製作所を横浜市保土ケ谷区へ移転

1950年 古河電気工業株式会社の電池部門を継承 し、古河電池株式会社として発足

1970年 今市工場を建設

1978年 いわき工場を建設

1986年 エフビー工場(日光市)を建設

1995年 ISO9001認証取得

1999年 ISO14001認証取得(いわき・今市事業所)

2001年 ISO9001·2000年版で全社統合取得

2002年 SIAM FURUKAWA CO., LTD.を子会社化

2003年 世界初の宇宙用リチウムイオン電池の開発に成功し、小惑星探査機「はやぶさ」に搭載

2010年 金星探査機「あかつき」にリチウムイオン

電池を搭載

小惑星探査機「はやぶさ」が、小惑星から 物質を地球に持ち帰るという世界初の快 挙に対し、搭載電池を開発した当社に文部 科学省より感謝状を授与

2011年 株式会社日本政策投資銀行の環境格付 審査で、鉛蓄電池業界では初となる最高 ランクを取得 サイクルユース専用長寿命形制御弁式据 置鉛蓄電池を発売(FCPシリーズ)

2012年 アイドリングストップ車用バッテリー (ECHNO(エクノ)IS)およびハイブリッド専 用補機パッテリー(ECHNO(エクノ)HV)を

2013年 サイクルユース用制御弁式鉛蓄電池 (UB-1000)およびアイドリングストップ車 用バッテリー(ECHNO(エクノ)ISシリーズ)にキャパシタハイブリッド型鉛蓄電池 [Ultra Battery]を採用し発売

インドネシア共和国に

PT.FURUKAWA INDOMOBIL BATTERY MANUFACTURING設立

いわき事業所内、ふくしま復興と競争力強化へ向けた自動車用鉛蓄電池工場の設備増強を実施、翌年7月稼働開始

2014年 世界初、紙製容器でできた非常用マグネシウム空気電池を凸版印刷株式会社様と開発・発表、12月、「MgBOX(マグボックス)」発売開始

当社開発のリチウムイオン電池を搭載した 小惑星探査機「はやぶさ2」が打ち上げ

2015年 インドネシア共和国に

2月

PT.FURUKAWAINDOMOBIL BATTERY MANUFACTURINGの自動車 用鉛蓄電池工場を完成 国内市販向けの自動車用鉛蓄電池などの販売会社5社を統合し、古河電池販売株式会社として発足

8月 PT.FURUKAWAINDOMOBIL BATTERY MANUFACTURING製の製品 を初出荷

11月 非常用マグネシウム空気電池MgBOXの開発メンバーが、第6回「ものづくり日本大賞」製品・技術開発部門経済産業大臣賞を

12月 凸版印刷株式会社様と非常用マグネシウム空気電池「MgBOX slim(マグボックススリム)」を開発・発表、翌年2月発売開始

2016年 ベトナムにおける蓄電池メーカー Dry 9月 Cell and Storage Battery Joint Stock Companyの発行株式10.5%を 取得

10月 株式会社JR東日本ウォータービジネス様との共同開発で、電源不要で自販機を稼働できる「自販機向けバッテリーユニット」 を開発

子育てサポート企業の証「くるみん」を取得

2017年 古河電池の最先端技術UltraBatteryに 1月 関するThailand 風力発電I-WIND社 (Inter Far East Wind International Co., Ltd.)との成約合意



## 事業継続計画(BCP)

#### BCP基本方針

## 1. 人命安全の観点

従業員・その他当社執務者、家族、来訪者などの安全を確保するため、防災対策を進めていく。

## 2. 事業継続の観点

自社を被害の受けにくい状態にすることで、顧客の要望に 合わせて事業を継続するため、早期に復旧できる様にする。

#### 3. その他の観点

地域住民、周辺自治体と協調し、復旧に努める。

## データバックアップ

当社では、災害やディスク障害でのデータの損失を防ぐために、データのバックアップを継続的に実施しています。また、広域災害やシステム障害に対処できる様に、バックアップしたデータを遠隔地で保存しています。

## 



#### ₹240-0006

神奈川県横浜市保土ケ谷区星川二丁目4番1号 星川SFビルTEL.(045)336-5034(代表) FAX.(045)333-3511 http://www.furukawadenchi.co.jp/



この印刷物の印刷及 び製本する際の電力量 (200kWh)は、自然 エネルギーでまかな われています。





